障害者歯科保健推進支援
～障害者施設職員への歯科保健に関する意識の向上とかかりつけ歯科医をもつ障害者施設利用者を増やすことを目指す～

西多摩保健医療圏

実施年度	開始　令和４年度　　終了（予定）　令和５年度
背景	障害のある方の特徴として、歯みがきに対する理解の不足や運動機能が十分でないことがあり、良好な口腔内状況を維持するためには、日常的な口腔ケアだけでなく、歯科医療機関等での定期的な歯科健診や予防処置が重要となる。こうした背景を踏まえ、東京都歯科保健推進計画「いい歯東京」の柱の一つとして、地域で支える障害者歯科医療の推進が掲げられ、家族や施設職員等への普及啓発、障害者施設利用者のかかりつけ歯科医での定期的な受診を促しているところである。 西多摩圏域においても、障害者等歯科保健推進対策事業において、施設職員や利用者家族の歯科保健に関する意識の向上及びかかりつけ歯科医を持つことの重要性の普及啓発に取り組んできた。これまでの課題に対する取組を継続するとともに、圏域のニーズに合わせたさらなる支援を進めるため、障害者施設や関係機関とのより強固な連携構築等、支援の基盤を強化していく必要がある。
目標	・障害者施設職員の方への歯科保健に関する意識向上 ・かかりつけ歯科医を持つ障害者施設利用者の増加
事業内容	令和３年度に実施した西多摩保健所圏域における「障害福祉サービス事業所等における歯科保健に関する調査」（以下、令和３年度調査）の結果を踏まえ、以下の事業内容を計画した。 ［令和４年度］ （１）令和３年度調査の分析、圏域のニーズ・課題抽出 （２）西多摩圏域内のネットワーク整備のため、障害者施設と関係機関等による連絡会の設置及び開催 （３）研修会での歯科保健に関する普及啓発（施設の取組事例報告） ［令和５年度］ （１）障害のある方と医療提供者間で活用できるコミュニケーションツールの作成、普及
評価	・令和３年度調査結果を踏まえ、障害者施設の取組実態について訪問調査を行った。施設内の歯みがき環境や歯みがき時の利用者の様子、施設職員の歯科保健に関する意識や障害の種別による取組内容について実態を把握した。 ・学識経験者、障害者施設の代表、歯科医師会、市町村歯科保健担当者を委員とした連絡会を開催し、現状の問題点等を含めた忌憚のない意見交換や情報共有を行うことで今後の方向性について検討を行った。その結果、障害者施設職員への歯科保健に関する普及啓発、かかりつけ歯科医を持つ障害者施設利用者の増加を目指した効果的な研修会開催の必要性の確認及び今後予定しているコミュニケーションツール作成にかかる意図の明確化に繋げることができた。 ・連絡会を経て企画された YouTube を使用したオンデマンド方式での研修会では、日々、障害者歯科に関与し連絡会委員でもある歯科医師、歯科衛生士及び施設所長による障害者歯科の現状、歯科診療の状況及び施設での支援について配信し、障害者歯科保健に関する普及啓発を効果的に実施した。
問合せ先	西多摩保健所　企画調整課　保健医療担当 電　　話　０４２８－２２－６１４１ ファクシミリ　０４２８－２３－３９８７ E-mail　S0000341@section.metro.tokyo.jp

1　事業実施までの経緯

（1）令和３年度　障害福祉サービス事業所等における歯科保健に関する調査結果（抜粋）

《調査の概要》

西多摩圏域の障害福祉サービス事業所等の中で通所サービスを提供している事業所の歯科保健の取組状況を把握し、障害者の歯科保健の推進に役立てることを目的に調査を実施した。

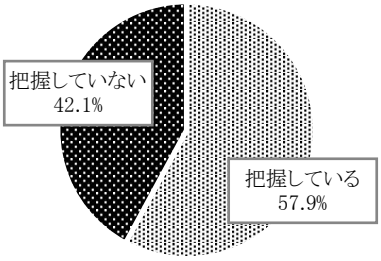
・調査期間：令和３年７月～11 月

・回答施設サービス種別：生活介護、就労移行支援、就労定着支援、就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型、地域活動支援センター

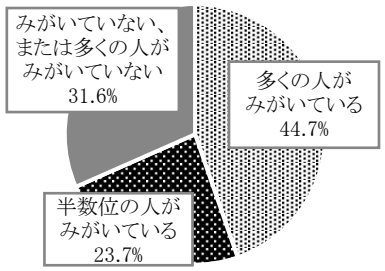
・回答施設数：38 施設

・回答施設利用者総数：1,641 人（18～19 歳 34 人、20～64 歳 1,521 人、65 歳以上 86 人）

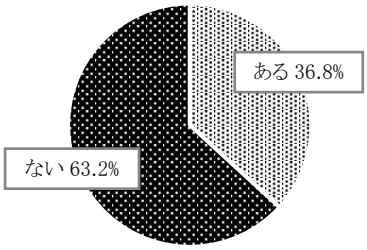
①利用者がかかりつけ歯科医を持っているかどうか把握していますか。



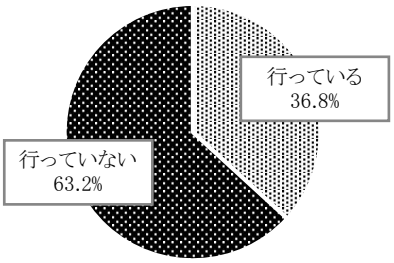
②利用者は昼食後に歯をみがいていますか。



③施設として、歯や口のことについて相談できる歯科医院はありますか。



④利用者に歯科に関する指導（歯みがき練習）や歯科健康教育など、歯や口の健康づくりの取組を行っていますか。



調査票



（2）課題

・利用者がかかりつけ歯科医を持っているか把握していない施設が **42.1%**である。

・昼食後に歯をみがいていない、または多くの人がみがいていない施設が **31.6%**である。

・歯や口のことについて相談できる歯科医院のない施設が **63.2%**である。

・歯や口の健康づくりの取組（歯みがき練習等）を行っていない施設が **63.2%**である。

2　事業目標

圏域での歯科保健関係者間及び障害者施設同士のつながりを強化し、利用者の健康な歯・口腔を維持することを目指し、以下の目標を掲げた。

・障害者施設職員の方への歯科保健に関する意識向上

・かかりつけ歯科医を持つ障害者施設利用者の増加

3　令和４年度事業内容



（１）障害者施設への訪問調査

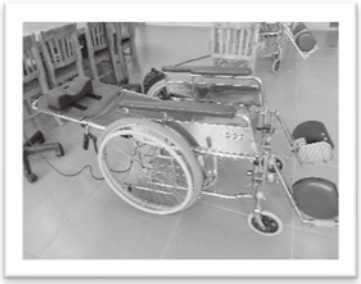
令和３年度調査結果を踏まえた訪問調査を実施し、以下の通り障害者施設での歯科保健に関する意識や取組実態を把握した。

歯みがき可能場所	1　作業場にある手洗い場	2　食堂にある洗面台
	3　トイレ横の手洗い場	4　キッチンの洗い場
歯ブラシ等保管場所	1　各自ロッカーに保管	2　洗面台のそばで全員分を職員が保管
昼食場所	1　食堂	2　作業を中断し、片付けて昼食
歯みがき等	1　各自行っているが、数名程度である。	
	2　歯みがきは難しいが、洗口剤なら今後可能かもしれない。	
	3　朝・夜は自宅で歯みがきをしていると聞いているが、昼食後の歯みがき習慣はない。	
	4　朝、自宅で歯みがき等（洗顔や洗髪）をしてから来所する決まりがある。	
	5　利用者自身で歯みがきを行い（１日３回）、その後職員による仕上げみがきを行っている。（現在は、感染予防のため１日２回）	
訪問歯科健診について	1　利用者のイライラしている理由が、口の中の異変であることに気付くことができた。	
	2　入れ歯の必要性が早くに分かる。 （歯が少なくなってからでは遅いと感じる。）	
	3　早期発見ができ、訪問治療のみで終われることが多い。 （通院となるととても大変である。）	
	4　利用者自身が頑張るようになる。	
	5　歯科健診を行ってくれる歯科医院を見つけるのにとても苦労した。	
	6　必要とは思うが、現実的に厳しい。	
歯科保健を 向上させるためには	1　訪問してくれる歯科医院を容易にみつけられるようになること。	
	2　対応できる障害や必要なサポートについて、施設職員と歯科関係者が話し合える場があること。	
	3　取組の発表ができるような場があると職員のやる気が上がる。	
	4　職員の中に歯科の担当を作ると責任感が生まれる。	
	5　利用者に歯科の大切さを教えるツールがあると良い。	
	6　施設で感染予防対策ができると良い。（簡単・安価）	
	7　外からの働きかけが必要。	



（歯ブラシ等保管場所）





（訪問歯科健診時に使用するリクライニング車椅子）

（２）西多摩地域障害者歯科保健推進支援連絡会の設置及び開催

ア　学識経験者及び西多摩圏域各８市町村（青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町）から１名以上の障害者施設の代表、歯科医師会、市町村歯科保健担当者を委員とした連絡会を設置

イ　西多摩圏域の障害者歯科保健推進のため、下記内容について連絡会を開催

・医療機関における障害者歯科の実際について情報共有
・障害者施設における歯科保健の取組について情報共有
・研修会の内容及び効果的な開催方法についての意見交換
・コミュニケーションツール作成についての意見交換　等



（連絡会の様子）

（３）西多摩地域障害者歯科保健推進支援研修会の開催

テーマ	多職種で支える歯科保健　～障害者の健康な歯・口を維持するために～
対象	西多摩保健所管内の障害児(者)施設職員、医療機関関係者、各市町村職員等
方法	YouTube を使用した Web 研修会(オンデマンド方式)
講師・内容	・社会福祉法人鶴風会　東京小児療育病院 歯科診療担当科長　萩原　麻美　氏　（歯科医師） ①障害者の歯科治療の実際について（20 分） ②歯科診療受診について（20 分） ・日本歯科大学　口腔ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ多摩ｸﾘﾆｯｸ 水上　美樹　氏　（歯科衛生士） ③新型コロナウイルス感染症流行時における歯磨きについて（20 分） ④歯ブラシの保管方法や施設での歯磨き補助について（20 分） ・社会福祉法人そよかぜ　福祉作業所ひばり園 根岸　徹　氏　（施設所長） ⑤事例発表（20 分）
視聴数	①127　②77　③81　④86　⑤86　　計 **457**　（令和５年３月 31 日時点）
ｱﾝｹｰﾄ結果	・とても参考になった。…70%　・参考になった。…30% ・歯みがき粉の選び方や歯ブラシの当て方、持ち方など参考にしたいと思う。 ・口の中の細菌の多さと菌の種類の多さが怖いと感じた。歯が悪いと身体のなかの病気を誘発すると言われていることを改めて感じ、口腔ケアの大切さを広めていきたいと思う。 ・絵カードを使用したコミュニケーション支援の実践が分かりやすくて良かった。 ・施設内で熱心に取り組まれている様子が伝わった。 ・歯科健診を始めた頃の苦労や 14 年間継続していることに感心した。また、歯の健康が仕事のマナーや身だしなみにも繋がっていることに改めて歯科健診の大切さを感じた。



（萩原麻美歯科医師の講演より）



（根岸徹施設所長の講演より）

4　評価

（1）障害者施設への訪問調査

令和３年度調査結果を踏まえ、障害者施設の取組実態について訪問調査を行った。施設内の歯みがき環境や歯みがき時の利用者の様子、施設職員の歯科保健に関する意識や障害の種別による取組内容について実態を把握した。

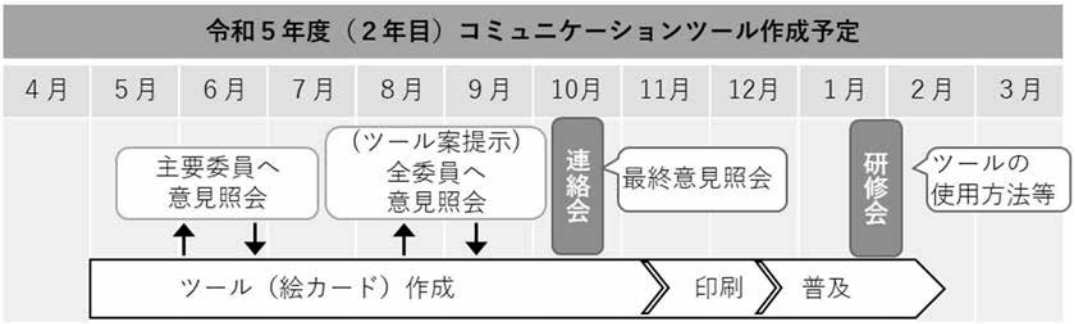
（2）西多摩地域障害者歯科保健推進支援連絡会の設置及び開催

学識経験者、障害者施設の代表、歯科医師会、市町村歯科保健担当者を委員とした連絡会を開催し、現状の問題点等を含めた忌憚のない意見交換や情報共有を行うことで今後の方向性について検討を行った。その結果、障害者施設職員への歯科保健に関する普及啓発、かかりつけ歯科医を持つ障害者施設利用者の増加を目指した効果的な研修会開催の必要性の確認及び今後予定しているコミュニケーションツール作成にかかる意図の明確化に繋げることができた。

（3）西多摩地域障害者歯科保健推進支援研修会の開催

連絡会を経て企画された YouTube を使用したオンデマンド方式での研修会では、日々、障害者歯科に関与し連絡会委員でもある歯科医師、歯科衛生士及び施設所長による障害者歯科の現状、歯科診療の状況及び施設での支援について配信し、障害者歯科保健に関する普及啓発を効果的に実施した。

5　令和５年度スケジュール及び今後の展開



・令和５年度は、コミュニケーションツールの作成に向け、連絡会委員との意見交換を経て案を作成し、連絡会にて最終意見交換を実施後に完成を目指す。なお、完成後のツールの使用方法等について研修会を開催予定である。

・令和５年２月 27 日から配信を開始した研修会について、引き続き配信を継続し、研修会等で周知することでさらなる参加者の増加を目指す。

・西多摩圏域では、以前より障害者等歯科保健推進対策事業において研修会、事例検討会等で施設職員や施設利用者家族の歯科保健の向上に取り組んできたが、本事業でより圏域のニーズに特化した支援を進め、ネットワーク等の基盤を強化し、障害者歯科保健事業のさらなる充実を図っていきたい。